



杉山 泰彦（通称：マギー）

株式会社WHERE（根羽村所長）
一般社団法人ねばのもり 代表理事
一棟貸し宿「まつや邸」家守

<経歴>

2014年、株式会社CRAZYに入社。組織づくり・イベント企画・マーケティングを担当する。その後、日本の各地域の文化やライフスタイルに魅力を感じ、2017年2月より地方と都会の繋がりを支援する株式会社WHEREに参画。「地域から新しいライフスタイルの選択肢を見つける」をモットーに、地域PR・移住定住サポート事業で20地域の案件実施を担当。

「自分自身が、もっと生きる力を身に付けたい」と思い、2018年12月より東京から長野県根羽村に夫婦で移住。

村民として村社会や村民としての生き方を肌で学びながら、2019年4月より「根羽村PR戦略担当」として、総合戦略を構築し、実行中。

2019年7月に子供が生まれたこともあり、「森林 × 教育」をテーマに次世代人材の育成に興味を持ち、事業を構想中。2020年8月、一般社団法人ねばのもり 設立をし、村民主体で村づくり活動ができるプラットフォームを構築。

<資格>

- ・SDGsアクションカードゲーム 公認ファシリテーター
- ・森林マインドフルネスアドバイザー
- ・ZaPASS コーチング BASIC認定

今日の時間の目的

これから地域循環共生圏構想づくりを始める皆さんにとって、有意義になる「準備」の進め方を体験談を踏まえお届けします。

根羽村の取り組みの特徴（なぜ呼ばれたか）

- 活動における「地域内」や「役場」との連動が高かった
- 村における「課題」をしっかりと捉え、「課題」を構造的に解決していくためのプロセスをひとつずつ潰した
- 課題の解決を行う上で、新たな事業・法人・プロジェクトが生まれている
(現在進行形)

現在進行中プロジェクトの一部



森林資源を活用した
新しい商品づくり



ワークショップを通じて
生まれた交流拠点の実現



役場の体制アップデートのための
継続的役場研修



中間組織
「一般社団法人 ねばのもり」

実行する上で

- ・ 効果的だったこと
- ・ そうでなかったこと

を、お話できればと思います

今日の流れ

- 自分の現在値を、問いを通じて把握してみる
- 根羽村での実戦談をつうじて、自分たちのこれからの活動に生かせるヒントを得る
- アクションプランを決める

**現在地の把握を
やってみましょう
(5つの質問を投げます)**

質問1

**あなたが取り組む
地域循環圏の
テーマはなんですか？**

質問2

**テーマを通じて解決したい
地域の課題はなんですか？**

質問3

その問題によって一番痛みを感じている人はだれですか？その痛みの大きさはどれくらい大きいですか？

質問4

**その痛みを解決するための
事業や商品アイデアは明確ですか？**

質問5

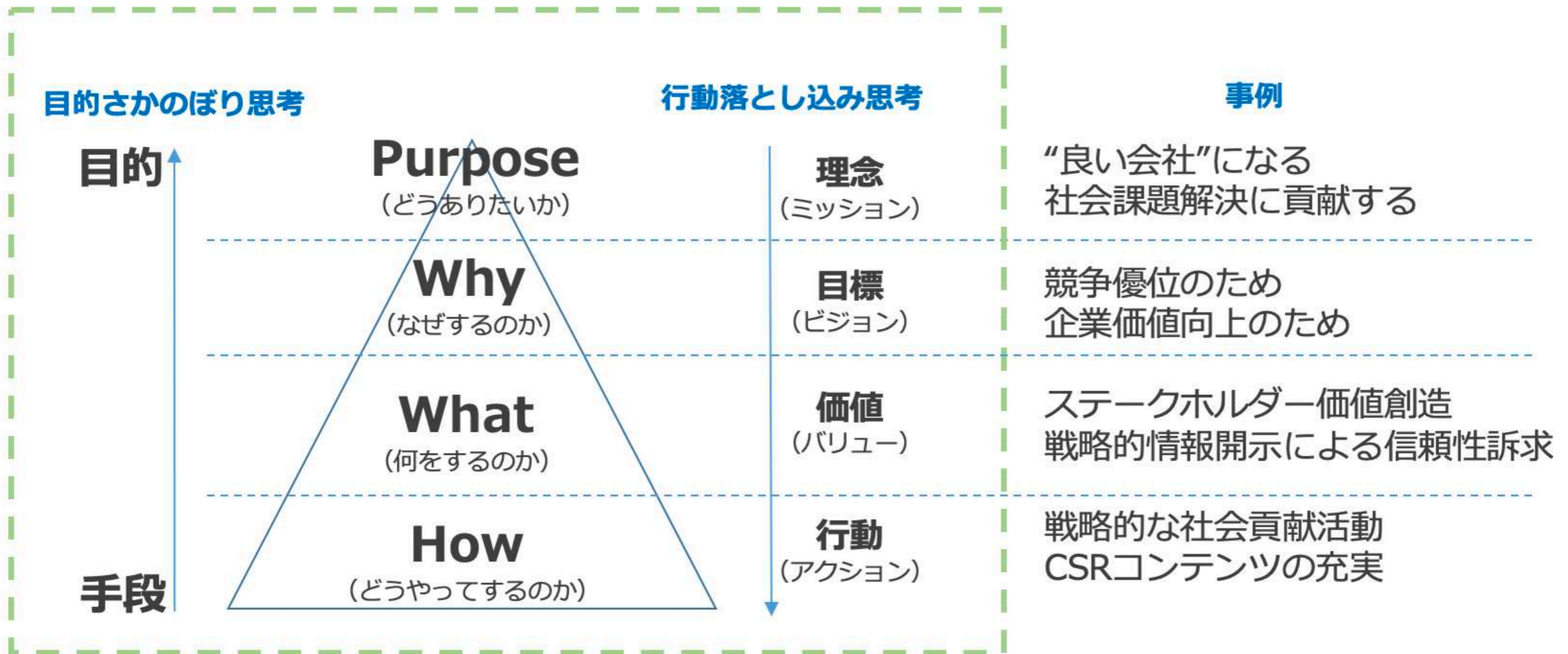
**アイデアの実現は
地域内リソースで可能か？**

足りない場合はどんなサポートが必要か？

パーパス・オリエンテッド・アプローチ

「これからのCSR」を実行するには、自らの大義を明確にしなければならない。その、企業の至上命題／存在意義にフォーカスしたフレームワークが「**パーパス・オリエンテッド・アプローチ**」である。この時の「パーパス」は、日本語の“目的”より“存在意義”の意味に近い。

パーパス・オリエンテッド・アプローチ



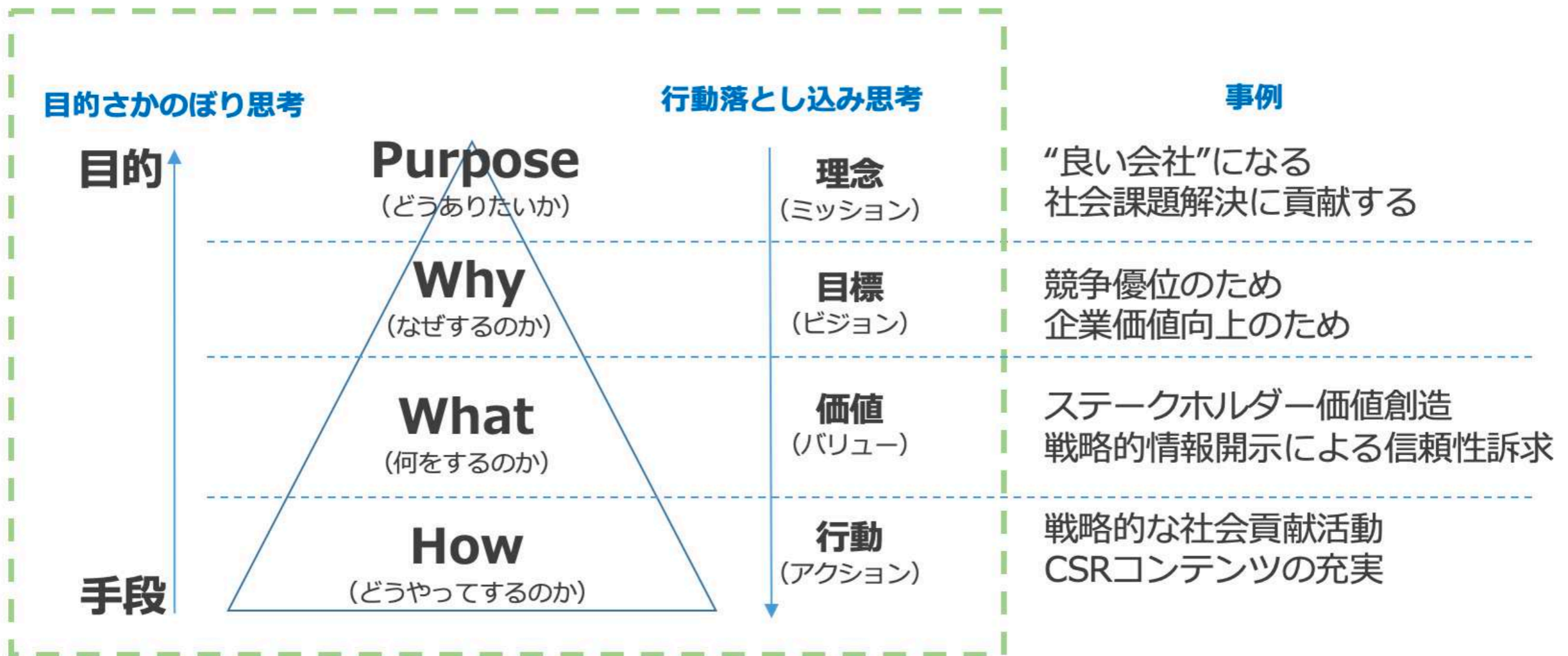
**自分たちのプロジェクトの
フェーズはどこにありますか？
(ここが、めちゃめちゃ大事)**

根羽村の場合は
「180万人の源流を守る」
という大義名分はあったが、
それ以降は何もなかった

パーパス・オリエンテッド・アプローチ

「これからのCSR」を実行するには、自らの大義を明確にしなければならない。その、企業の至上命題／存在意義にフォーカスしたフレームワークが「**パーパス・オリエンテッド・アプローチ**」である。この時の「パーパス」は、日本語の“目的”より“存在意義”の意味に近い。

パーパス・オリエンテッド・アプローチ



根羽村
地域循環共生圏
ワークショップ

根羽村 地域循環共生圏の 取り組みについて



長野県下伊那郡根羽村

みなみ信州 根羽村

長野県の最西南端に位置する

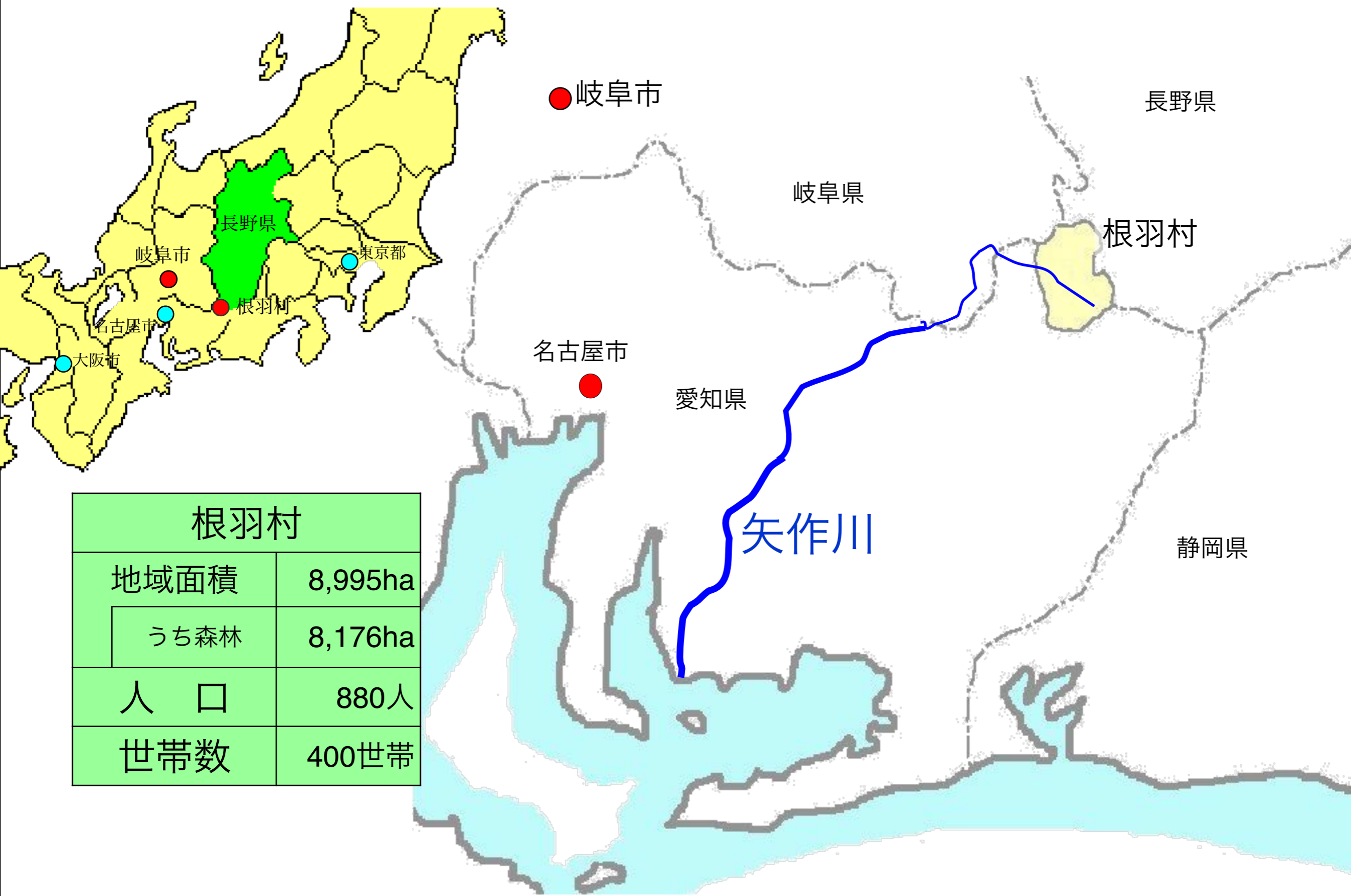
根羽村は、村の面積の90%余り

を森林が占める、自然豊かな村



日本の里100選

根羽村の概況



根羽村	
地域面積	8,995ha
うち森林	8,176ha
人口	880人
世帯数	400世帯

根羽村について

岐阜県と愛知県の間、長野県の南西部最南端に位置する根羽村。
流域人口110万人が恩恵を受ける矢作川源流の山あいの村に、900人が暮らしています。
面積の92%が森林で、村民すべてが森林組合員。

川の水は山から流れ、森を守らなければ水は守れない。

「親が植え、子が育て、孫が伐る」ことによって、村人は代々森を守ってきました。



高齢化と人口減少

山を育て、土地を耕し、自然の恵みのなかで生活をする山村の暮らしは近代化による木材価格の低迷や産業構造の激変のなかで急激な過疎化を迎えました。森の保全や、拡大する耕作放棄地を解消する労働力を失ったいま長いあいだ源流を守ってきた村は消滅の危機を迎えています。



NEVER FOREST

いまだかつてない森

森と生きていく。

私たちは 人口900人の村で、森林が占める面積が92%

だからこそ、私たちは村を大きな森と捉える。

私たちの持つ最大の価値である森。

この魅力を伝え、活かし、発展させ、

いまだかつてない森の中で 私たちは生きていく。

活動団体名：長野県根羽村

活動地域：根羽村・矢作川流域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

流域に住む人々の豊かさを保つための、持続
する源流の山村づくり

当時の村の状況について

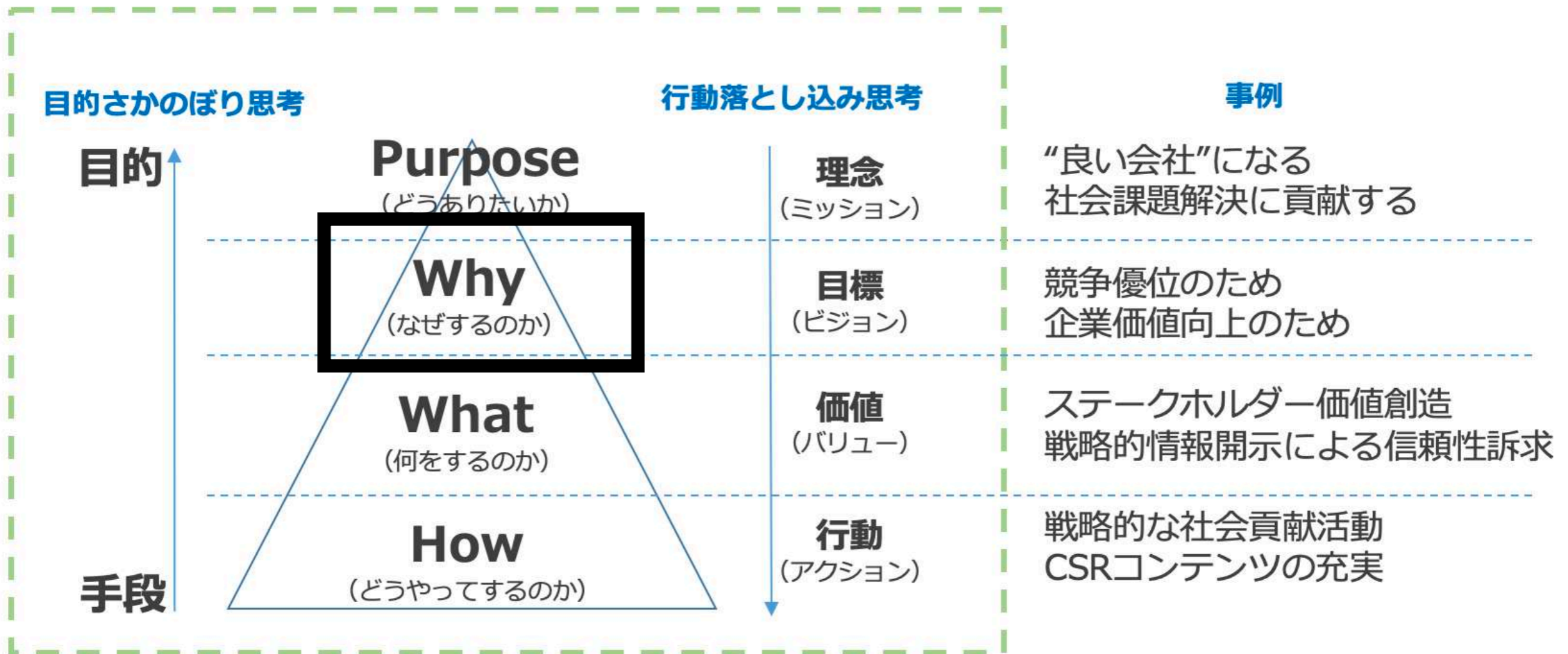
- 役場主導で動いている流域連携プロジェクトはいくつかあったが、形骸化している。
- 職員数の減少の中で形骸プロジェクトが残り、職員への負担が大きく、やりがいは少ない。
- 森林組合にキーマンがおり、主導で村外との連携を色々進めてきた。が、役場との連携に課題があった。
- 総じて、各々が頑張っているが、連動が少なく成果が生まれていない状況だった。

<地域のぶっちゃんげ>
自分たち村民が
そもそも満たされていないのに
なぜ「流域連携」をやるの？

パーパス・オリエンテッド・アプローチ

「これからのCSR」を実行するには、自らの大義を明確にしなければならない。その、企業の至上命題／存在意義にフォーカスしたフレームワークが「**パーパス・オリエンテッド・アプローチ**」である。この時の「パーパス」は、日本語の“目的”より“存在意義”の意味に近い。

パーパス・オリエンテッド・アプローチ



地域循環事業のメリット
予算の使い方に柔軟性を
持たせられること

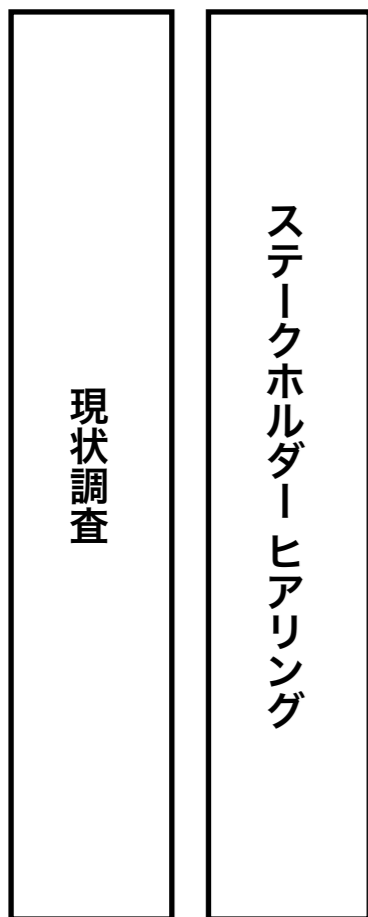
課題に対してのアプローチ方法

- 自分たちの地域の課題感を理解した上で、似た様な課題感の解決を他地域で行ったことがあるパートナーの誘致
- パートナーとともに地域ヒアリングを行い課題の特定化とともに、ヒアリングを通じて解決に一緒に向かってくれる仲間を集める

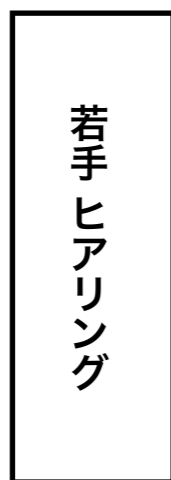
ワークショップの流れ

2/16

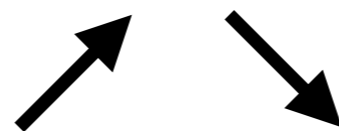
10/28-29



12/2-3



12/15-16

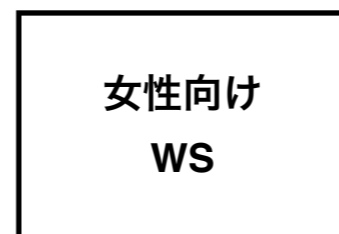


1/16-17



報告会+大室教授講演

12/15



**ヒアリング& WSで
初年度はほぼ使い
パーパスとWHYをつなげる**

ワークショップの目的（中の人にとって）

30代~40代の村内在住者がこの地域で
今後も「楽しく生き続けられる」環境をつくる

ワークショップの目的（未来に向けて）

地域循環共生圏WSの実施によりマンダラづくりとその事業計画作成を進める。

+

地域の若者メンバーが村での将来を希望を持ち、協働により新しい仕事（ソーシャルビジネス）の立ち上げを進める。

暮らしチーム

魅力

- ・ 水がうまい
- ・ 空が綺麗
- ・ 住宅が綺麗
- ・ 学校は楽しい
- ・ 田舎であること 年と共に田舎に憧れる傾向あり
- ・ 四季を感じる
- ・ 来るもの拒まぬ村民性
- ・ 村民ほぼ顔がわかる
- ・ 人柄（やさしい）
- ・ 人とのつながり（都会にない）つながりがある
- ・ 若者が知恵を出し合う仕組みができつつある
- ・ 子どもたちが仲良し
- ・ 農林業に関心のある方はうってつけ

課題

- ・ 災害時直接災害ない物資こない 災害への意識が低い
- ・ 忙しい イベントの手伝いで家族と過ごせない
- ・ お出かけの地の利が悪い
- ・ 男女で分かれる（グループが）
- ・ 気合い
- ・ 文化生活 美術・芸術
- ・ 人口減に対する歯止めがない
- ・ 若者が少ない 独身者が多い
- ・ 高齢世帯 独居暮らし
- ・ 後継ぎ帰ってこない
- ・ しいたけ ほおづきなど（名産品）をつくる人
- ・ 人材不足 老若問わず 少人数（みんな必要）

どんな人が来て欲しい？

- ・ 20代農業してくれる人
- ・ コミュニケーションが取れる人
- ・ 物知り
- ・ 創造性の高い人
- ・ 仕事場
- ・ 情報発信してくれる人
- ・ 自然を大事にする人
- ・ 子育て中の人
- ・ 親子
- ・ ダンスが好きな人
- ・ アイドル
- ↓
- ・ マギー 幸山さん 智雄くんの仲間を増やすには？
- ↓
- ・ 人脈のある人
- ・ 発信しからかす
- ・ 一般参加型（スポーツ イベントなど）
- ・ 家を多くしたほうがいい
- ↓
- ・ 地域の運動会
- ・ 学校の行事を体験してもらう
- ・ スポーツ（公民館）
- ・ 安城の交流？
- ・ 山村留学？
 - 親子留学？
 - もう少し発信する

子育て

① 現状把握

- ・ 習い事・スポーツできる環境が少ない
- ・ 高校で親元／地元を離れる
- ・ 子どもが少ない
- ・ PTA 大変
- ・ 先生の質が悪い
- ・ 病院も少し不安がある
- ・ 子育て家庭の声を聞いてくれる（行政）
- ・ 保育園でトマト使ってくれる
- ・ おじいちゃんおばあちゃんが子ども見てくれる
- ・ 先生が目が届く

② 理想

- ・ 病院なくても健康でいられればいい
- ・ 特技を伸ばせる環境がある
- ・ 自然の中で遊ぶ
- ・ 1クラス10人前後欲しい
- ・ 子どもが好きなスポーツをできる
- ・ 文化を繋いで育ててほしい
- ・ 子どものやりたいことをチャレンジ 村で応援してくれる
- ・ 自然+都会的な習い事
- ・ まつや邸ベースに習い事

③ 必要条件

- ・ 暮らしを学ぶ機会を
- ・ 自然の中で安全に遊べるフィールド
- ・ 先生がいる（習い事の）
- ・ 親子が増える→近くの村とかと一緒にスポーツ
- ・ 子どもの学びの場 何がほしい
- ・ 子育ての先生が欲しい
- ・ 遊びの先生
- ・ 親も学ぶ

④ マネタイズ

- ・ ネバーシッター

① 教育・子育て

- ・ 消防や公民館など、夫ばかり出かけるのが不満
- ・ 価値観の狭さ、古い考え（子供がいるからしょうがないなど）
- ・ 夫婦で参加したい行事の時、子供を見てくれる人がいない
- ・ 安心安全な教育環境
- ・ 学校教育の内容（学校の先生ともっと連携したい）
- ・ 保育園の対応・体制が不満
- ・ 子供たちの同級生がもっと欲しい（子供が少ない）
→子供たちが部活動を選べない
- ・ 夫にもっと子供と過ごしてほしい
- ・ 習い事に通うのが大変

② 仕事・稼ぎ

- ・ 働く場所の選択肢が少ない
- ・ 時間に余裕のある仕事体制
- ・ 自分のやりたいことを受け入れてくれるか不安（根羽の人・特に義両親）

（具体的に）

- ・ 1～2万円プラス
- ・ 5万円
- ・ 現状維持でよい

③ 地域のこと

- ・ 現代にあった消防の在り方（年末警戒など）
- ・ 夜遅い行事・仕事以外の外出のせいで家族の時間が無い（消防・公民館・商工会）
→それが当然という風潮
- ・ 人間関係（コミュニケーション不足）
- ・ 核家族としての暮らしがしたい
- ・ 国道以外の雪かきが遅い
- ・ 雪が降ると村内の雪かきに行かなければならず、家の雪かきが大変
- ・ 車がないと外出できない
- ・ 病院が遠い
- ・ Amazon 等を買ってしまう現実（本当はもっと村内にお金を落としたい）
- ・ もっと歩道を整備してほしい
- ・ 不都合を伝えても解決につながらない
- ・ コインランドリーが欲しい
- ・ お客さんが少ない
- ・ 家がない
- ・ 虫が多くて困る
- ・ 冬の寒さ
- ・ 人工林の多さ
- ・ 女性で集う場所がない
- ・ ゆっくり話せる場所が欲しい

新しい取り組み

仕事と暮らしの
コミュニティの場づくり

産業×観光（教育）の
仕組みコーディネート

村の資源を活用した
新規企画営業

人材コーディネート、
活動資金獲得のサポート

仕事と暮らしのコミュニティの場づくり

テレワーク推進

→ テレワーカー育成／拠点整備／塩尻市振興公社との連携

拠点内にコミュニティスペース（シェアキッチン、コワーキングスペース）の設置

→ 共助による子育て・介護／ウェルネス＋介護予防事業

<関係事業>

若い女性が集まれるコミュニティの場の整備

子育てしやすい環境づくり

女性向けのウェルネス事業

テレワーク事業の普及

買い物弱者支援

派生事業／フレイル、介護予防への取り組み

産業×観光（教育）の仕組みコーディネート

村内資源のコンテンツ化／観光まちづくり

→ 林業や農業を観光または村外向けの教育プログラムに

ガバナンス型まちづくり方式

→ 収益事業により非収益事業を支える仕組み。村外へ向けたコンテンツを村内へ展開。

<関係事業>

村内のフィールドを活かした環境教育

村外への木育普及活動

地域資源を活かした（着地型）ツアーづくり

田舎へ山村留学プログラムの活性化

企業へのSDGsワークショップ

村民の生きがい改革

子どもの可能性を広げる環境整備

図工の授業での根羽木材の活用

村内教育での「地域学充実化」

村の資源を活用した新規企画営業

商品のPR、開発

→ 特産品のPR不足解消／技術（人的リソース）を活用した新しい商品企画

PR戦略の企画立案

→ ダイレクトマーケティング／情報発信の多チャンネル化

<学生からの提案>

村の木材、利用されなくなった機材を利用したメイカーズスペースの運営

→ 一般利用だけでなく、クリエイターとのアイデアソンなどへの活用も。

<関係事業>

森林資源を活用した加工・製造事業

山地酪農の実践

特産品の開発

統合した企画・営業マンの設置

WEBを活かしたPR発信（国内・海外）

人材コーディネート、活動資金獲得のサポート

移住、関係人口の増加へ向けた取り組み

→ 広域エリアでの連携も視野に

地域保全のための資金獲得サポート

→ クラウドファンディング実施や補助金取得のノウハウ提供

<関係事業>

村内の技能伝承プログラム

農業ノウハウの伝授

生活インフラを守る各事業者の伝承

快適な「住」環境の整備

移住者が快適に生活できるサポート体制

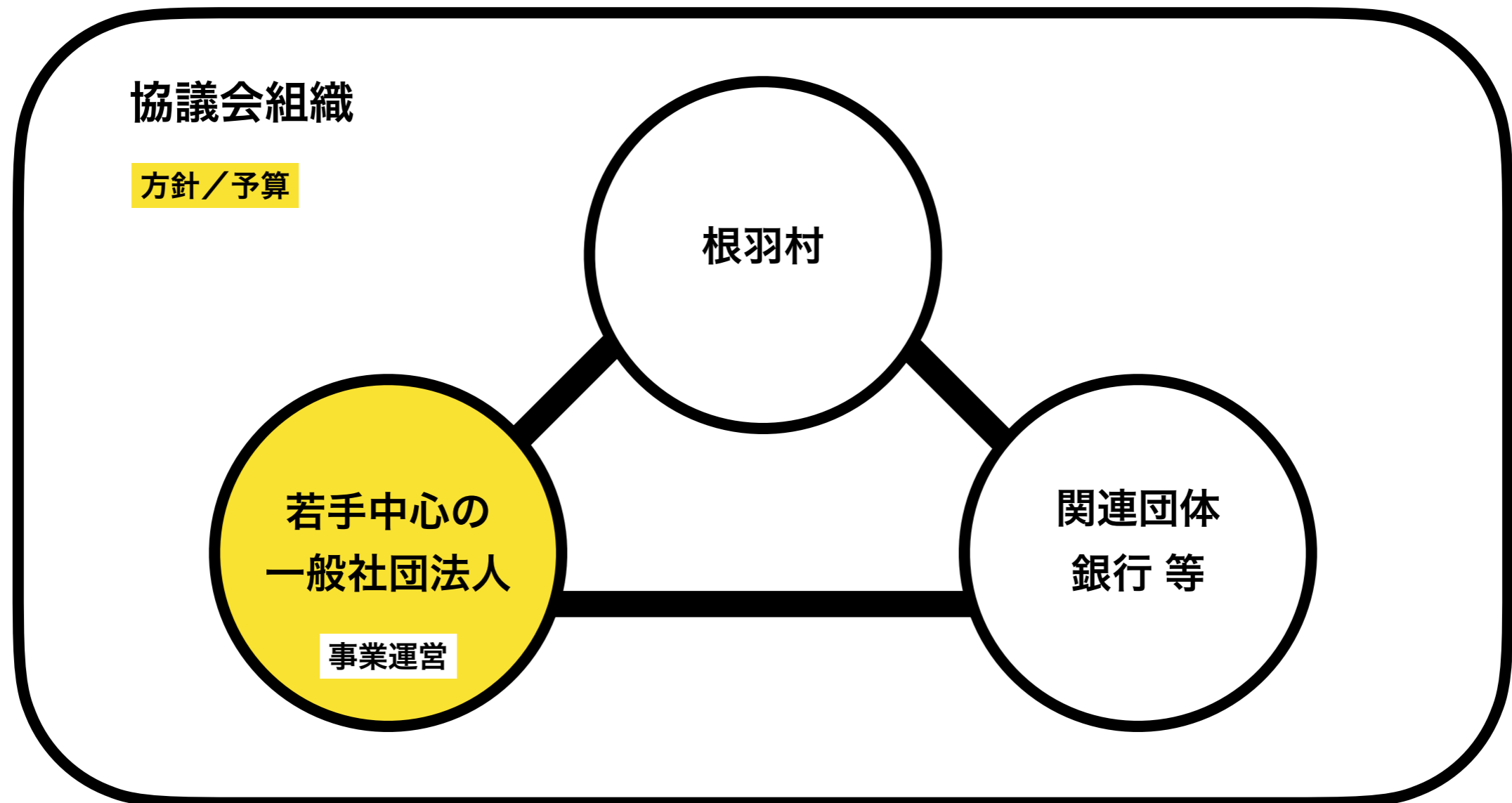
木の駅プロジェクト

森林ゾーニングを活かした豊かな森づくり

広葉樹の生育・栽培

取り組みを進めるための仕組み

役場に頼らない「事業」を推進する仕組みづくりが必要。
大まかな方向性と予算付を協議会組織が、実行は一般社団法人が担当。
一社を担う若手のチームが、スピード感を持って事業を実行していく。

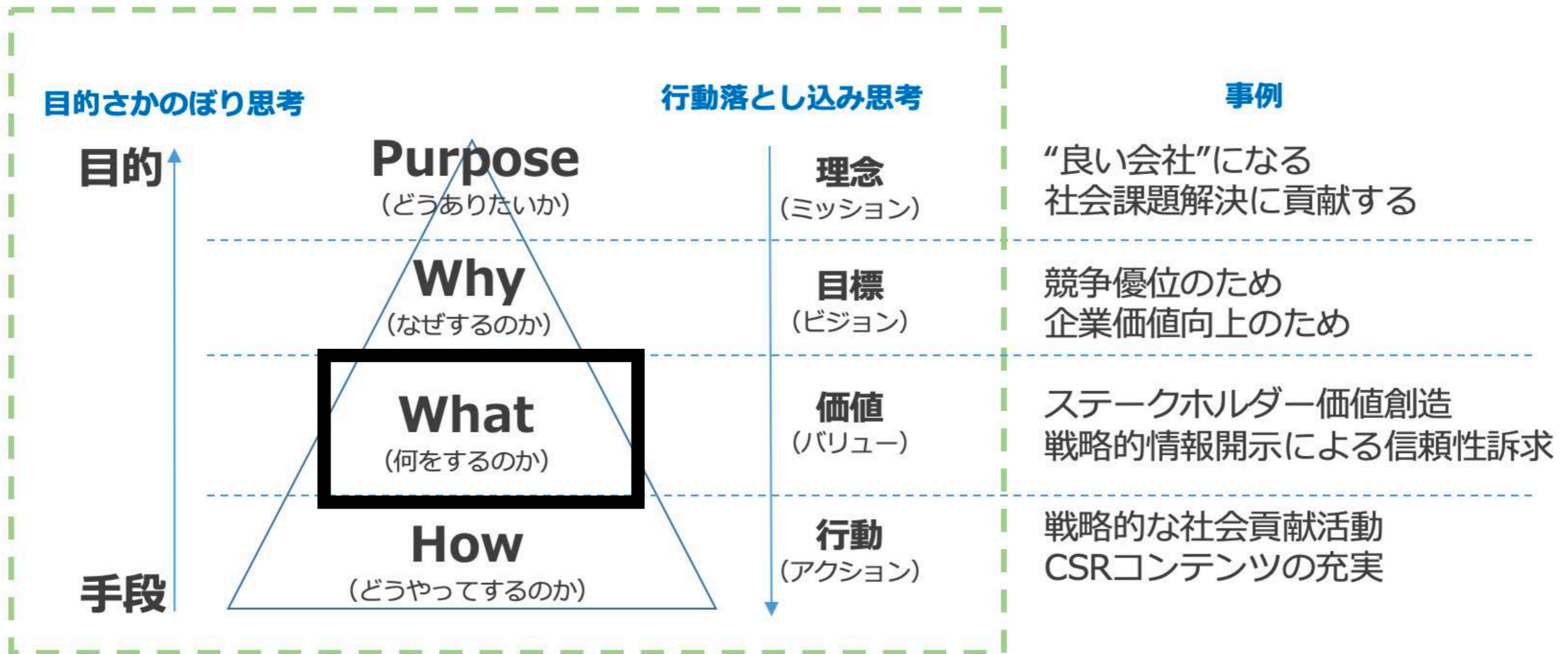


R2年度の取り組み

パーパス・オリエンテッド・アプローチ

「これからのCSR」を実行するには、自らの大義を明確にしなければならない。その、企業の至上命題／存在意義にフォーカスしたフレームワークが「**パーパス・オリエンテッド・アプローチ**」である。この時の「パーパス」は、日本語の“目的”より“存在意義”の意味に近い。

パーパス・オリエンテッド・アプローチ





いつまでも居たい森を、共に描こう。

「ねばのもり」は、長野県根羽村を舞台に、森と共存していく里山をつくるプロジェクトです。これからの森づくりで大切なことは、たくさんの人々と共にアイデアを実践・実行していくこと。あなたの大切なアイデアは、ここ根羽村で形にできます。

根羽村
役場

①
資金面での
連携

一般社団法人
ねばのもり

②
「地域づくり」の
授業として連携

根羽学園

③
フィールドと
技術&木材の提供
依頼

根羽村
森林組合

④
森のテーマパーク
構想を実施



ねばのもり × 織物
木糸から作るライフスタイル製品





ねばのもり × 環境教育
根羽のエコツアーリズム





杉の木からつくる繊維「木の布」プロジェクトを多方面に展開中

大阪府に工場を構える株式会社和紙の布との事業連携を結び、杉の間伐材から木の布繊維に加工できる技術を活用、新たな木材資源の活用方法を創出しています。すでに同技術で商品を展開している株式会社いろどり(徳島県上勝町)と提携を結び、木材から作るタオルの

製造/販売を進行中。原料の一種である「木糸」は和紙の製法を元に開発された希少な技術を用いてつくられた糸です。環境に配慮されたサステナブル繊維として今後様々な商品で人々の日常に木の布を届け、環境保全活動を進めていきたいと考えています。



子どもの個性を輝かせる
村独自の教育システム



学生がつくる「森のテーマパーク」



森を活かした「教育サービス」の展開

これまで森林組合が中心となってきた出張型の木育活動に加え、根羽村のフィールドを活かし、自然の中で感性を育む子ども向けの教育サービスの展開を進めます。森林が92%を占めるこの村の恵みと文化を活かしたプログラムを通じて、新たな事業創出も目指します。



村民×デジタル施策の推進

現在進行中プロジェクトの一部



森林資源を活用した
新しい商品づくり



ワークショップを通じて
生まれた交流拠点の実現



役場の体制アップデートのための
継続的役場研修



中間組織
「一般社団法人 ねばのもり」

**自分たちのプロジェクトの
フェーズはどこにありますか？
(ここが、めちゃめちゃ大事)**

**現在地の把握を
やってみましょう
(5つの質問を投げます)**

質問1

**あなたが取り組む
地域循環圏の
テーマはなんですか？**

質問2

**テーマを通じて解決したい
地域の課題はなんですか？**

質問3

その問題によって一番痛みを感じている人はだれですか？その痛みの大きさはどれくらい大きいですか？

質問4

**その痛みを解決するための
事業や商品アイデアは明確ですか？**

質問5

**アイデアの実現は
地域内リソースで可能か？**

足りない場合はどんなサポートが必要か？